

醜婦を呵す

泉鏡花

青空文庫

村夫子そんぶうしは謂いふ、美の女性に貴ぶべきは、其面そのめんの美なるには

あらずして、単に其意そのこころの美なるにありと。何ぞあやまれるの

甚はなはだしき。夫子ふうしが強あながちに爾しかき道義的誤謬ごびうの見解を下したるは、大早

計にも婦人を以て直ちに内政に参し家計を調ずる細君と臆断おくだんし

たるに因るなり。婦人と細君と同じからむや、蓋けだし其間あひだに大差あ

らむ。勿論もちろん人の妻なるものも、吾人ごじんが商となり工となり、はた

農となるが如ごとく、女性が此世に処せむと欲して、扱えらぶ処の、身過みすぎ

の方便には相違なきも、そはたゞ芸妓げいぎといひ、娼妓しやうぎといひ、矢

場女ばをんなといふと齊ひとしく、一個任意の職業たるに過ぎずして、人の

妻たるが故ゆゑに婦人が其本分を尽したりとはいふを得ず。渠等かれらが天

命の職分たるや、花の如く、雪の如く、唯、美、これを以て吾人
男性に対すべきのみ。

男子の、花を美とし、雪を美とし、月を美とし、杖を携へて、
瓢を荷ひて、赤壁に賦し、松島に吟ずるは、畢、竟するに未
だ美人を得ざるものか、或は恋に失望したるものの万止むを得ず
してなす、負、惜の好事に過ぎず。

玉の腕は真の玉よりもよく、雪の膚は雨の結晶せるものよりも
よく、太液の芙蓉の顔は、不忍の蓮よりも更に好し、これを
然らずと人に語るは、俳優に似たがる若旦那と、宗教界の偽善
者のみなり。

されば婦人は宇宙間に最も美なるものにあらずや、猶且美な

らざるべからざるものにあらずや。

心の美といふ、心の美、貞操か、淑徳か、試みに描きて見よ。

色黒く眉薄く、鼻は恰もあるが如く、唇厚く、眦垂れ、頬ふくら

み、面に無数の痘痕あるもの、豕の如く肥えたるが、女装して

絹地に立たば、誰かこれを見て節婦とし、烈女とし、賢女とし、

慈母とせむ。譬ひこれが閨秀たるの説明をなしたる後も、吾人

一片の情を動かすを得ざるなり。婦人といへども亦然らむ。卿等

は描きたる醜悪の姉妹に対して、よく同情を表し得るか。恐らく

は得ざるべし。

薔薇には恐るべき刺あり。然れども吾人は其美を愛し、其香を

喜ぶ。婦人もし艶にして美、美にして艶ならむか、薄情なるも、

残忍なるも、殺意あるも亦害なきなり。

試こころみに思へ、彼の糞汁ふんじゆはいかむ、其心美なるにせよ、一見すれ

ば嘔吐おうとを催す、よしや妻とするの實用に適するも、誰たれか忍びてこ

れを手にせむ。またそれ蠅はへは厭いとふべし、然れどもこれを花片はなびらの

場合と仮定せよ「木の下は汁しるも鱧なますも桜かな」食物を犯すは同一おなじき

も美なるが故ゆゑに春興はるきたり。なほ天堂てんたうに於ける天女エンゼルにして、もし

その面貌醜みにくならむか、濁世だくせいの悪魔サタンが花顔雪膚くわがんせつぷに化したるもの

に、嗜好しかうの及ばざるや、甚はなはだ遠し。

希こひねがくば、満天下の妙齡女子、卿等けいら務めて美人たれ。其意そのこころの

美をいふにあらず、肉と皮との美ならむことを、熱心に、忠実に、

汲きふく々として勤めて時のなほ足らざるを憾うらみとせよ。読書、習字、

算術等、一切すべての科学何かある、唯紅粉粧飾たゞこうふんさうしよくの余暇に於て学ばむのみ。琴や、歌や、吾われはた虫と、鳥と、水の音と、風の声とにこれを聞く、強しひて卿等を勞せざるなり。

裁縫は知らざるも、庖丁はうちやうを学ばざるも、卿等が其美を以てすれば、天下にまた無き無上権を有して、拔山蓋世ばつざんがいせの英雄をすら、掌中に籠ろうするならずや、百万の敵も恐るゝに足らず、恐るべきは一婦人いつふじんといふならずや、そもく何を苦しんでか、紅粉を措おいてあくせくするぞ。

あはれ願ねがくは巧言、令色、媚こびて吾人に対せよ、貞操淑氣を備へざるも、得てよく吾人を魅せしむ。然る時は吾人其恩に感じて、是これを新しき床の間に置き、三尺すさつて拜せんなり。もしそれや

けに紅粉を廃して、読書し、裁縫し、音楽し、學術、手芸をのみこれこととせむか。女教師となれ、産婆となれ、針妙となれ、寧ろ慶庵けいあんの婆々ばゞあとなれ、美にあらずして何ぞなん。貴夫人、令嬢、奥様、姫様ひいさまとなるを得むや。ああ、淑女の面の醜なるは、芸妓、娼妓、矢場女、白首しろくびにだも如かしぎるなり。如何いかにとなれば渠等かれらは紅粉を職務として、婦人の分を守ればなり。但たゞ、醜婦の醜を恥ぢて美ならむことを欲する者は、其衷情憐むべし。然れども彼かの面の醜なるを恥ぢずして、却つてこれかへを誇る者、渠等は男性を蔑視するなり、呵かす、常に芸娼妓矢場女等教育なき美人のくしを罵る処の、教育ある醜面の淑女を呵す。——如斯かくのごとく説ふものあり。稚氣笑ふべきかな。

(明治三十年八月)

青空文庫情報

底本：「現代日本文學大系 5 樋口一葉・明治女流文學・泉鏡
花集」筑摩書房

1972（昭和47）年5月15日初版第1刷発行

1987（昭和62）年2月10日初版第13刷発行

入力：小林徹

校正：伊藤時也

2000年9月14日公開

2005年11月23日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

醜婦を呵す

泉鏡花

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>